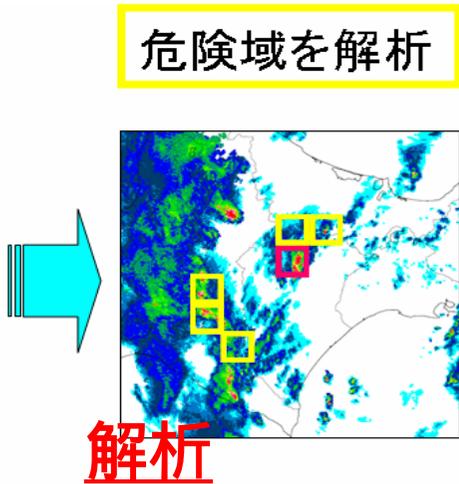
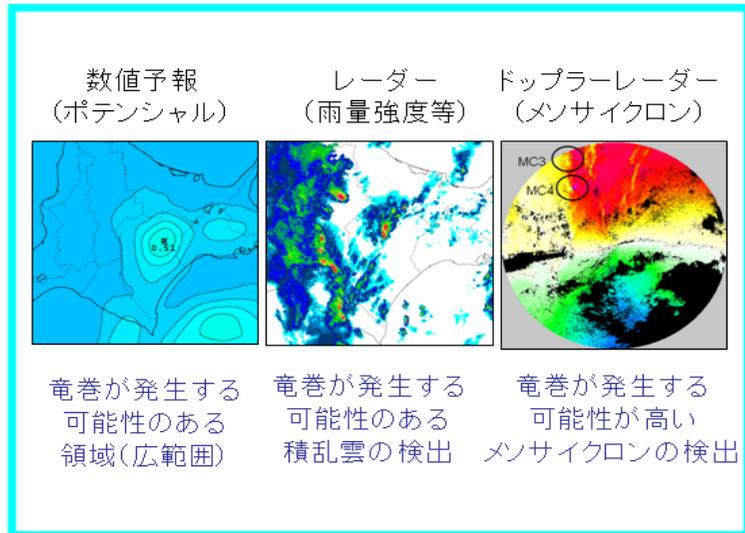


業務化にむけた今後の課題と取り組み

平成19年7月12日
第1回 突風等短時間予測情報利活用検討会
気象庁

多様な利用が可能な数値データで提供する突風等短時間予測情報(仮称)

- 10分刻みで1時間先まで予測する格子点データ -

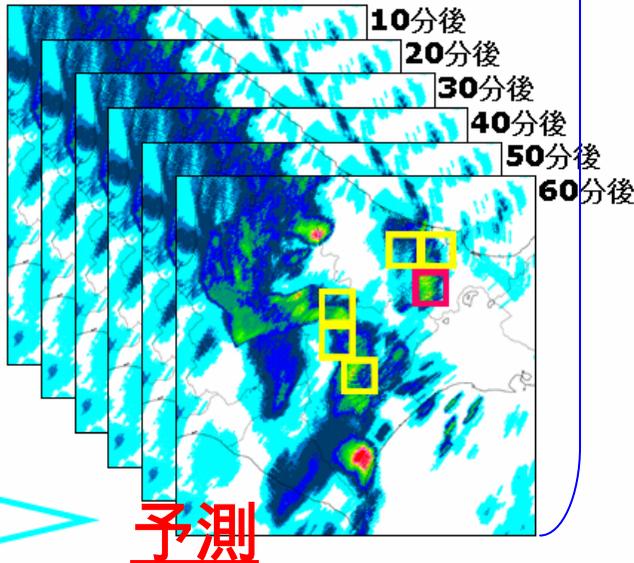
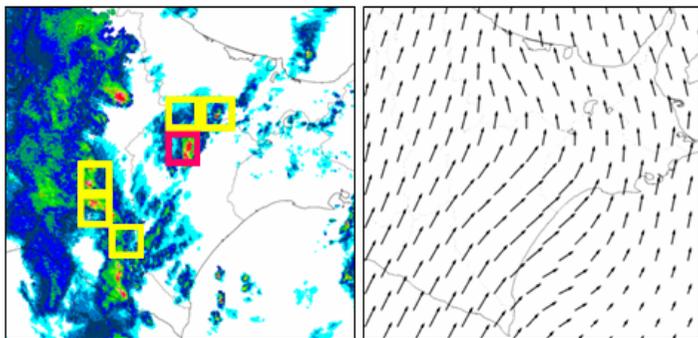


平成22年度開始

突風、雷、降水、それぞれについて格子点データとして作成

突風等の発生の可能性を、10分刻みで1時間先まで予測

解析された危険域 + 移動速度



↓ 利用者の用途に応じて設計された監視画面 (各利用者が構築)



時々刻々変化する突風等発生の可能性を詳細に把握

突風等短時間予測情報(仮称)の業務化に向けた課題(案)

地方気象台等

平成19年度末開始予定

「突風に関する府県気象情報」が地元気象台から発表される

平成22年開始予定

「突風等短時間予測情報(仮称)」10分間隔でシステム自動発信

想定する利用者の行動

文章情報の有効性確認
文章表現の見直し要否
伝達方法・報知方法

文章情報

伝達

報知



格子点データ



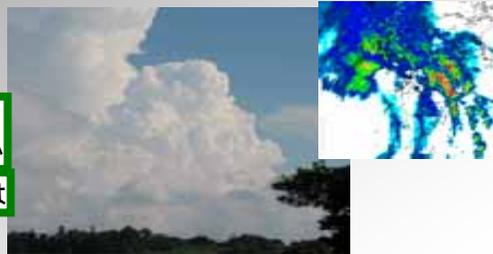
防災端末等による監視

オンライン提供

利用分野に応じた情報加工や報知方法のガイドラインとは

テレビ向け表示画面のガイドラインとは

情報発表中:
空の状態変化に注意



最終的には自己判断
利用者に対応できるか
判断のガイドラインとは

情報の有効期間

気象ドップラーレーダー観測時間から1時間(発表から50分程度。情報内に明記する)

有効期間を過ぎたら通常状態に戻る

有効時間を持った情報は利用者にとって使いやすいか

整理すべき課題

空が急に暗くなる等異変を感じたら速やかな危険回避

退避行動のガイドラインとは



想定される「速やかな危険回避」

- ・ガラス窓から離れる
- ・堅牢な建物のなかに避難する
- ・高所等危険地帯から退避する
- ・減速・注意徐行など

竜巻は発生頻度が小さく、時間的な寿命も極短い。本情報はこれまでの気象情報に比べて精度的な困難があり、発表後すぐに利用されない効果が小さい。情報の意味の理解が進み、即時に情報を入手し活用する体制の整えやすいライフライン等での利用には有効。一般ユーザーには、即時に情報提供するしくみや情報の内容と活用への理解が必要である。これらについて利活用に関する検討会で検討を行う。

第2回利活用検討会までに気象庁で取り組む事項(案)

関係機関からの聞き取り調査

1. 平成19年度末から実施する文章形式の「突風に関する気象情報(案)」について

気象庁が検討している情報の内容、利用形態、伝達方法等について、情報の特性等を解説した上で意見を聞き取り調査する。

調査した結果は、第2回利活用検討会において報告するとともに、情報の内容確定、利活用方法の整理及び普及・啓発方法の参考とする。

2. 平成22年度から実施する「突風等短時間予測情報(仮称)」について

気象庁が検討している情報の内容、利用形態、伝達方法等について、情報の特性等を解説した上で意見を聞き取り調査する。

調査した結果は、第2回利活用検討会において報告するとともに、情報内容の整理、利活用及び普及・啓発の方向性を整理する。

3. 聞き取り調査を行う機関の候補

電力関係機関、鉄道関係機関、高速道路関係機関、航空関係機関
港湾関係機関、農業関係機関、遊園地等イベント関係機関、建設関係機関、
教育関係機関、報道機関(テレビ、ラジオ)